

博士論文概要

論文題目

医療安全教育項目の体系化と
適用に関する研究

A Study on Structure of Educational Contents
for Healthcare Safety and Application

申請者

梶原	千里
Chisato	KAJIHARA

経営デザイン専攻 品質マネジメント研究

2012 年 10 月

病院は、複数の職種から構成される組織である。そのため、医療の質を向上させるためには、組織で質保証の活動に取り組む必要がある。そこで、組織的に業務の質を管理、改善するための仕組みである質マネジメントシステム(以下、QMS)を導入・推進する病院が増えている。

QMSとは、質を保証するための業務の仕組みのことである。各医療機関へのQMSの導入効果については多くの研究報告がある。例えば、米国医療の質委員会は、有害事象のうち半分以上は医療安全のためのシステムが確立されていれば防げた可能性が高いと報告している。このように、各病院でQMSを導入することによって、医療の質に関する目標を組織的に達成することが可能になるといえる。

QMSは、業務のやり方を定めた文書類、それらに基づいて業務を実施する人、設備などの経営資源から構成される。その中でも、組織の人員は、QMSを運用する上で最も重要な要素であるとされている。そのため、職員への継続的な教育を実施していくことが望ましい。

病院は、安全な医療を提供しなくてはならない。安全は質の一つの要素であるが、医療は直接的に人命にかかわる業務が多く、やり直しがきかないという特徴から、特に安全を重視すべきであり、「質・安全」といった表現を用いて、安全性を強調することも多い。安全を確保するために、医療安全マネジメントを実践することは、QMSの中でも重点的な活動である。

しかし、医療安全の重要性が強調されるようになったのは、1999年の横浜市立大学病院での患者取り違え事故以降であり、医療安全に関する活動の歴史は浅い。また、病院には、医療安全に関する活動を管理・推進している医療安全管理者が配置されている。この医療安全管理者に対する業務指針および養成のための研修プログラム作成指針を厚生労働省が提示したのは2007年であり、十分に医療安全教育が検討されてきたとはいえない。このように、医療安全管理者の教育でさえ整備が遅れており、その他の医療従事者に対する医療安全教育の体制はさらに整っていないのが現状である。各病院でも医療安全教育を実施しているが、体系的な教育システムをもっているところは少ない。

したがって、医療安全教育で教えるべき項目を明確にし、体系的な教育を実施するための方法論を開発することは重要な課題であるといえる。これを確立することによって、各病院にて体系的な医療安全教育を実施することができ、医療安全マネジメントシステムの導入・推進に大きく貢献すると考えられる。

従来研究においても、医療安全に関する教育項目や教育カリキュラム立案方法は提案されている。しかし、従来研究で提案されている教育項目では、それを導出するための基本的な考え方や根拠等の基盤が存在しない。教育後に受講者が何を実践できるようになるかについては、「医療安全が実践できる」、「事故再発防止活動を行うことができる」といった大まかな目的は示されているものの、詳細

化された目的はなく、明示的には示されていない。すなわち、教育項目を抽出するための明確な基盤は提示されていない。そのため、教育項目の網羅性の確認や実施した教育の評価が難しくなっている。さらに、従来の教育項目は、業務を行う際にどのように安全を確保するかといった項目が中心となっている。医療安全は組織で取り組むべきことであり、医療安全を確保するための体制を整える必要があるが、そのための教育項目はほとんど取り上げられていない。

また、従来の教育カリキュラム立案方法では、教育後に受講者が達成すべきことを明確にした上で、それを達成するための教育項目を選定することが求められている。しかし、達成すべきことをいかに明確にするかは立案者に委ねられている。したがって、その設定に不備がある場合、選定する教育項目にも抜け漏れが生じる可能性がある。さらに、教育を立案する上で対象者の選定は重要であるが、その具体的な方法については述べられていない。

本研究では、医療安全マネジメントを実践するための医療安全教育項目と教育カリキュラム立案方法を提案することで、病院において必要な医療安全教育を実施可能にすることを目的とする。なお、本研究では、医療安全マネジメントの役割に応じて層別された対象者ごとに、役割を達成するために受講すべき教育項目が整理された状態を医療安全教育カリキュラムと定義する。

医療安全マネジメントは、病院の全職員がそれに関するそれぞれの役割を果たすことによって有効に機能する。本研究では、医療安全マネジメントを実践できる人材を育てるための教育を医療安全教育と呼び、そこで教えるべき教育項目を整理した一覧表を提案する。まず、医療安全を保証するために病院で運用すべき医療安全マネジメントシステムを明確にし、それを運用するために必要な教育項目を導出する。また、教育項目一覧表を活用した医療安全教育カリキュラムの立案方法も提案する。本研究では、医療安全マネジメントの役割によって対象者を層別し、各対象者が役割を達成するために必要な教育項目を一覧表から選定する方法を提案する。そして、提案した教育項目一覧表と立案方法を適用し、病院で教育カリキュラムを立案、実施し、有効性を確認する。さらに、提案した教育項目のひとつである危険予知トレーニング(KYT)を取り上げ、教育を行うための計画、準備、実施、評価という一連の流れを適用した結果を示す。

教育は、病院の教育方針や目標に沿って行われる。提案する教育項目一覧表により、医療安全マネジメントを実践するために必要な教育項目の全体像を把握することが可能となるため、一覧表の教育項目の中で教育方針・目標に見合った項目、医療安全マネジメントの役割を達成するために受講すべき項目がどれであるかを判断することで、必要な教育項目を容易に選定できるようになる。また、現状の医療安全マネジメントシステムの問題点を分析した上で、それを解決するための医療安全教育を実施することも可能となる。したがって、医療安全マネジメ

ントの実践に有益な教育カリキュラムが立案されることが期待できる。

本研究で提案する教育項目一覧表と教育カリキュラム立案方法の特徴は、病院で運用すべき医療安全マネジメントシステムを基盤として、教育項目や医療従事者が身につけるべき能力を導出した点である。医療安全マネジメントシステムを基盤として教育項目を導出することで、教育により達成すべきことが明確になるため、評価の実施が容易となる。また、医療安全マネジメントシステムの構造に基づき教育項目を整理することで、教育項目一覧表の構造化を図ることができる。その結果、医療安全マネジメントの実践に必要な教育項目が含まれているかという観点で、項目の網羅性を確認することが可能となる。

教育カリキュラム立案方法では、医療安全マネジメントシステムを明確にしたことによって、医療安全マネジメントの役割に応じて対象者を層別することが可能となる。従来では、受講者の在職年数で対象者を層別することが多かったが、在職年数が同程度であっても医療安全マネジメントにおける役割が異なる場合もある。医療安全マネジメントの役割によって対象者を層別し、その役割を達成するための教育項目を選定することで、より効果的な教育の実施を可能にする。

本論文の構成は、以下に示す 6 章からなる。

第 1 章では研究の背景を述べ、本研究の目的を示す。

第 2 章では、医療安全教育、質マネジメント教育、教育カリキュラム立案方法に関する従来研究を概観し、医療安全マネジメントシステムを基盤として、教育項目と教育カリキュラム立案方法を導出した本研究の位置づけを示す。

第 3 章では、まず、産業界における QMS を参考に、教育項目を検討する際の基盤となる医療安全マネジメントシステムを明確にし、それを運用するために医療従事者が身につけるべき能力を検討する。その後、教育項目の全体像を設計し、詳細な教育項目を導出する。そして、導出した教育項目を整理し、教育項目一覧表を提案する。さらに、医療安全マネジメントの役割に応じた教育カリキュラムの立案方法を提案する。提案方法では、医療安全マネジメントの実践における機能図を用いて、医療安全マネジメントの推進体制を記述することで、医療安全マネジメントの役割に応じて対象者を層別する。また、スキルマップを作成し、各対象者が身につけるべき能力を特定して、必要な教育項目を一覧表より選定する。

第 4 章では、教育項目一覧表と立案方法を適用して、実際に病院で医療安全教育カリキュラムを立案、実施し、教育項目一覧表と立案方法の有効性を確認する。また、提案した教育項目のひとつである KYT を取り上げ、教育を行うための一連の流れを適用した結果を示し、教育を行う際に検討すべき事項を考察する。

第 5 章では、教育項目一覧表および教育立案方法の意義、他研究との比較、KYT の適用結果に関する考察を述べる。

第 6 章では、本研究で得られた成果のまとめと今後の展望について述べる。

早稲田大学 博士（経営工学） 学位申請 研究業績書

氏名 梶原 千里 印

(2012年9月現在)

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
論文	<p>○ [1] 与薬事故における危険予知トレーニングシートの作成方法の提案 品質, Vol.41, No.3, 2011/7/15, pp.77-86. <u>梶原千里</u>・棟近雅彦・金子雅明・佐野雅隆</p> <p>○ [2] 医療安全教育項目一覧表の提案 品質, Vol.42, No.3, 2012/7/15, pp.106-117. <u>梶原千里</u>・棟近雅彦・金子雅明・佐野雅隆</p>
国際会議	<p>[1] A Study on the Method of Designing Kiken Yochi Training Sheets (Hazard Prediction Training Sheets) in Medical Service The 6th Asian Network for Quality Proceedings, 2008/10/30, <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masaaki KANEKO</p> <p>[2] A Study on the Method to Develop Education System for Nurses The 7th Asian Network for Quality proceeding, 2009/9/17, <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masaaki KANEKO</p> <p>[3] A Study on the Structure of Educational Contents on Healthcare Quality and Safety ANQ Congress 2010, Delhi, 2010/10/1 <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masaaki KANEKO, Masataka SANŌ</p> <p>[4] A Study on the Structure of Educational Content for Health Care Quality and Safety 55th EOQ Congress ,Budapest,2011/6/20 <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masataka Sano, Haizhe Jin</p> <p>[5] A Study on a Method of Planning Countermeasures by Error-Proofing 55th EOQ Congress ,Budapest,2011/6/20 Haizhe Jin, Masahiko Munechika, Masataka Sano, <u>Chisato Kajihara</u></p> <p>○ [6] A Study on the Education and Training for Healthcare Quality and Safety -Carrying Out Education and Training and Measuring Participant Understanding- ANQ Congress 2011, Ho Chi Minh City, 2011/9/28 <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masataka SANŌ</p> <p>○ [7] Proposal of the Method to Plan Education and Training for Healthcare Safety ANQ Congress 2012, Hong Kong, 2012/8/2 <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masataka Sano, Haizhe Jin</p> <p>○ [8] Proposal of Method for Planning Education and Training in Healthcare Safety 15th QMOD conference on Quality and Service Sciences ICQSS 2012, 2012/9/6 <u>Chisato KAJIHARA</u>, Masahiko MUNECHIKA, Masataka Sano, Haizhe Jin</p> <p>[9] Analysis of Medication Incident for Improvement of Medication Processes 15th QMOD conference on Quality and Service Sciences ICQSS 2012, 2012/9/6 Masataka Sano, Masahiko MUNECHIKA, Haizhe Jin, <u>Chisato KAJIHARA</u></p>

早稲田大学 博士（経営工学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
口頭発表	<p>[10] Four Steps to Reduce Medical Incidents 15th QMOD conference on Quality and Service Sciences ICQSS 2012,2012/9/6 Haizhe Jin, Masahiko MUNECHIKA, Masataka Sano, <u>Chisato KAJIHARA</u></p> <p>[1] 医療における危険予知トレーニングシート of 設計方法に関する研究, 医療の質・安全学会誌,3,205,2008/11/23, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦, 金子雅明, 杉山良子</p> <p>[2] 医療における質・安全教育方法の見直しについて, 日本品質管理学会第91回研究発表会, 2009/9/4, 田中宏明, <u>梶原千里</u>, 金子雅明, 棟近雅彦</p> <p>[3] 医療の質・安全教育項目の導出に関する研究, 日本品質管理学会第39回年次大会, 2009/10/31, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦, 金子雅明, 田中宏明, 井上文江</p> <p>[4] 医療における質・安全教育方法の見直しについて, 日本品質管理学会第39回年次大会, 2009/10/31, 田中宏明, <u>梶原千里</u>, 金子雅明, 棟近雅彦</p> <p>[5] 医療の質・安全教育項目の導出に関する研究, 医療の質・安全学会誌,4,113,2009/11/21, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦, 金子雅明, 田中宏明, 井上文江</p> <p>[6] 医療の質・安全教育の取り組みについて, 日本医療マネジメント学会大阪支部第3回学術集会, 2010/1/16, 田中宏明, 香西瑞穂, 山崎慶子, <u>梶原千里</u>, 金子雅明, 棟近雅彦</p> <p>[7] 医療の質・安全における継続的教育システム構築の取り組み, 医療の質・安全学会誌,5,151,2010/11/28, 香西瑞穂, 田中宏明, 山崎慶子, 高橋典子, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦</p> <p>[8] 医療の質・安全教育に関する研究－医療の質・安全教育の実践とその評価－, 日本品質管理学会第95回研究発表会, 2011/5/28, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦, 佐野雅隆</p> <p>[9] 医療安全教育の計画立案方法に関する研究, 日本品質管理学会第41回年次大会, 2011/10/29, <u>梶原千里</u>, 棟近雅彦, 佐野雅隆</p> <p>[10] 医療安全教育の評価に関する研究, 日本品質管理学会第98回研究発表会, 2012/5/26, <u>梶原千里</u>, 壺岐翼, 棟近雅彦, 佐野雅隆</p>
書籍	<p>[1] 早わかり医療安全ハンドブック－誰もががっらい目にあわないために－, 2011, 株式会社麻生 飯塚病院</p>